

豊かな自然と誇りうる文化の郷 成美地区 てくてく GUIDE MAP



見どころ スポット ガイド

1 出上岩屋古墳(鳥取県指定保護文化財)



古墳時代(6~7世紀)に造られたものと推定される。内部は切石の石棺型石室で、石は安山岩質凝灰岩の切石と両輝石安山岩の巨大な自然石を用いている。

2 前田氏の大タブ(琴浦町指定天然記念物)

樹木は周囲6.68m。樹高14.60m。枝張り16.10m(東西)、14.60m(南北)。クスノキ科の常緑高木で、樹齢は400年以上と推定される。ヤマハゼ・ネズミモチ・キズタ・ノキシノブ等が着生している。



3 分乗寺の宝篋印塔(琴浦町指定保護文化財)



赤碕塔(県指定保護文化財)と共に、この地方に特有の形式で、台座・塔身・笠ともに凝灰岩でつくられている。相輪は損失しているが、ほぼ原形をとどめ、残存高1.20mである。

4 豊栄神社(旧西宮神社…嘉永2年(1849)に大森大明神の分霊を奉じて建立)

昭和2年(1927)、東井手上神社、水口神社、大石神社、上田神社の四社を合祀して社号を豊栄神社と改めた。



5 成美神社(旧立子神社…応永年間(1394~1428)の創建と伝える)



大正6年(1917)、福田神社、中村神社、高取神社、佐崎神社、西井手上神社の五社を立子神社に合併し、社号を成美神社と改めた。

6 喜国山長伝寺(曹洞宗退休寺末)

天文年間(1532~1554)に本寺退休寺山内西来院五代の住僧竹園和尚の隠居寺として建立され開山となる。



7 亀福山常栄寺(曹洞宗退休寺末)



慶長4年(1599)佐伯新左衛門尉友貞によって開基し、元和5年(1619)に退休寺山内納来院の9代目光室舜清和尚による開山と伝承されている。

8 竹宝山水月堂(長伝寺境内地)

水月堂は、大同5年(810)に上中村に建立され、元禄年間(1688~1704)に現在地に堂宇が移される。延享元年(1744)の「伯耆札所縁起」に「21番、立戸村、堂、十一面立仏」とあり、伯耆の国33霊場の一つで、第21番札所となっている。御詠歌「月かげもいくよたつこの山なれや 枝もこけむす庭のひめ松」(文政6年<1823>に鹿島長智が奉納)。現在のご本尊(十一面観世音菩薩)と33体の観音像は、昭和12年(1937)に赤碕の仏師・森下真浄が彫刻したものである。



9 塞の神



●成美神社の塞の神は、明治30年(1897)に奉納されたもので、山形の大きな自然石の中央上段に「塞神」、その下左右に「八衢比古命」(やちまたひこのみこと)と「八衢比賣命」(やちまたひめのみこと)の二柱の神の名が刻まれている。



●豊栄神社の境内には、嘉永6年(1853)の銘と明治35年(1902)の銘と、2基の塞の神が祀られている。いずれも丸い形の自然石に、男女の双神像が線刻されている。

10 大藤の瀧と不動明王

大藤の瀧の横の岩壁に不動明王の像が彫刻されている。元明帝(708~714)の頃の開基と伝え、地元集落の人々によって信仰され周辺整備がなされている。



11 川合清丸誕生地の碑

嘉永元年(1848)に成美神社神官の長男として生まれ、明治5年(1872)に大山の大神山神社の権宮司となる。明治21年(1888)に神・儒・仏の三道を習合して大道社を創立する。尊王愛国の大義を説き、忠孝仁義の大道を唱道する。大正6年(1917)6月24日逝去。昭和12年(1937)、林銑十郎元首相を会長として、条山の山頂に川合清丸翁の遺徳顕彰碑を除幕。



12 佐崎の両墓制

両墓制は、埋め墓(第一次墓)と詣り墓(第二次墓)とからなる。佐崎の両墓制については、遠隔型と隣接型の併存が認められる。



13 太一垣城(条山城)跡

条山の丘陵の突端に築かれた山城の跡で、土塁などに昔の面影をとどめている。天正8年(1580)吉川元春が羽衣石城の南条元統と争った時、小鴨の岩倉城に対峙する城として築かれたと伝える。池田藩が文政元年(1818)に調べた「因伯古城跡図志」の古写絵図が伝えられている。



14 成美教育の発祥

常栄寺の寺小屋と神職の河合家の宮小屋がその源流といわれている。成美小学校は、明治8年(1875)に鏡津小学校太一垣支校として開校され、明治20年(1887)に八橋郡第七尋常小学校太一垣簡易小学校と改称し独立校となる。その後、明治25年(1892)に保永尋常小学校となり、明治31年(1898)に成美尋常小学校と改称。さらに、昭和16年(1941)に成美国民学校と改称され、昭和22年(1947)成美小学校となり、平成6年(1994)佐崎の地に移転して現在に至る。



15 黒川

川の名の由来は「伯耆民談記」に「元弘の昔、後醍醐帝の御船、楠丸の入りしより後、此の川筋の石、黒くなりしとて黒川と称す」と記載されている。中村の南方、標高450mに源を発する流長7.9キロの2級河川である。船上山山麓の谷川を集めて北流し、尾張川、梅田川と合流して日本海に注ぐ黒川水系の本流である。

16 勝田川

勝田ヶ山に水源を発し、矢筈川を合流してほぼ北流し日本海に注ぐ勝田川水系の本流で、2級河川。流長約16.1キロ。以前は、大雨による水害が多発していたので「暴れ川」と呼ばれていた。

17 成美の大木あれこれ

成美地区には豊栄神社・成美神社の社叢と条山や水月堂の境内を中心に、たぶ、椎、けやき、銀杏、まき、もっこく、山もも、杉、くす、もち、さくら、さかき、せんだんなどの大木が点在している。